

第 7 1 次 西湘地区教育研究集会 報告書

(主題) 主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善

(副題) 子どもとつくる学習計画の在り方

第 1 分科会

分科会名 日本語教育

分会名 開成南小

I はじめに

1 テーマ設定の理由

コロナ禍の令和2年度、本校の校内研究は、例年とは異なる局面を迎えた。休業期間中に研究会を開き、「主体的、対話的で深い学び」について何度も話し合いをもてたことで、めざす子ども像やテーマに迫る手立てなどの共通理解が、より深くできたのである。

その中で、令和2年度の成果と言えるものの一つ、「(国語科における)子どもとつくる学習計画」について、組合員全員で学び合いたいと思い、本テーマ「主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善 ～子どもとつくる学習計画の在り方」を設定した。

2 テーマに迫るための仮説

研究会での話し合いを通して、国語科におけるめざす子ども像は次の3点とした。

- ①国語で正確に理解し、適切に表現する子
- ②言語を手掛かりにしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりする子
- ③言語への自覚を高めながら、言語能力の向上を図る子

これまでの研究の積み重ねを生かしながら、「授業の土台づくり」と「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」を大きな柱として、教材を使い、言語活動を通して、言葉で考える力を育てていきたいと考えた。校内研究全体会の学びから、多く出されたキーワードは以下の通りである。

主体的な学び	・・・	見通し・振り返り・気付き・粘り強く
対話的な学び	・・・	互いの考え・多様な情報収集・多様な手段・先哲の考え方
深い学び	・・・	思考・知識・技能の習得、活用・自分の思いや考えと結び付ける

これらを受け、めざす子ども像を「問い続け、追究する子ども」と掲げた。そして、そこに向かうための手立ては以下の3つとした。

(1) 単元でつける力を明確にした単元構成の工夫

新学習指導要領解説国語編（平成29年告示）では、言語活動の充実を踏まえた授業改善は図られているが、国語科の場合依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が必要だと述べられている。「教材を教える」のではなく、「教材を使って」学ぶことができるように、単元構成について研究していくことにした。単元の指導計画を考える際には、単元構成の工夫として、次のような例を考えた。

	単元構成の仕方	資料
1	身に付けたい力の決定	学習指導要領解説国語編
2	児童の学習状況・実態調査	学習指導要領解説国語編
3	言語活動の選択	調査・アンケート
4	評価基準の設定	国立評価研究所を基に
5	教材の選択	教科書・本など

はじめに、単元で付けたい力を明確にし、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージして、学習指導要領の「領域」(内容) 指導事項と照らし合わせる。次に、それに対する児童の学習状況と実態を調査する。そして、単元で付けたい力に対して、適切な評価基準を設定する。その力を付けさせるために、国

語科でどういう言葉の活動にするかを学習指導要領の言語活動例を参考に設定する。

この内容をふまえて、単元を構成していく。単元を構成する上で大事になってくるのは、もちろん教材の選択である。教材は、教科書に載っているからという理由ではなく、単元で付けたい力を身に付けさせるためには、この教材が適切だからという理由で選んでいくのが望ましい。教材を選択したら、あとは、その力を付けさせるために単元を構成していく。あくまで、国語科は、教材の読み取りだけではないことを頭に入れておく。

(2) 学習課題の工夫

児童が「何を」「どのように」学ぶのかを理解し、学習への意欲や見通しをもつために学習課題を提示することは、とても大切なことである。教師は、学習のねらい・理解させたい内容・課題解決の方法等を明確にして学習課題を設定し、分かりやすく提示して、児童に何を学習するのか、意識づける必要がある。そこで、以下のような方法で学習課題を考えていくこととした。

- ①本時目標に沿った学習課題を設定する。
- ②1時間の学習内容から学習課題を設定する。
- ③意欲が湧く学習課題を設定する。
- ④具体的で分かりやすい課題提示をする。
- ⑤子どもたち全員に学習課題を意識づける。

また、児童が選択・判断する場面を設定する「Which 型課題」を設定する方法もある。

(3) 学習展開の工夫

1時間の学習展開は、学習過程によっても変わってくるが、今年度は「読む」領域の「文章の解釈」の過程における1時間の学習展開を研究していきたい。

	学習活動	内容
1	めあてをつかむ	本時の学習のめあてを確認し、見通しをもつ。
2	考えをもつ	目的をもって読み、叙述をもとに自分の考えを書く。
3	交流する	考えを発表し合い、読みを深めていく。
4	まとめる	自分の言葉でまとめる。
5	振り返る	本時の学習を振り返る。

以上のことから、教師と児童がともに国語科の教材について話し合い、単元の始めに学習計画を協同で作成することで単元全体の見通しをもつことができ、児童の主体的な学びを深められると考えた。

Ⅱ 実践

第1学年 授業実践

1 単元名「すきなところを見つけよう」 教材名『たぬきの糸車』

2 単元目標

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	① 物語の好きなところを選び、楽しみながら音読で伝え合おうとしている。

4 研究テーマの実現に向けた手立て（子どもとつくる学習計画）【実践前】

「くじらぐも」では、「すきなところをみつけてよもう」というめあてをもち、音読が上手になるために、詳しく教材文を読んでいくという学習計画を立てた。場面の様子を想像し、音読を工夫して音読発表会をした。「じどう車くらべ」では、教材文を読み、自分たちも自動車図鑑を作りたいという思いをもちながら、読み進め、自動車図鑑を作った。

本単元では、「くじらぐも」と同様に、「すきなところをみつけてよもう」のめあてで学習していく。読みのめあてをもつために、まず始めに教材文を読んで好きなところを見つけたり、感想を話したりしながら学習計画を立てる。そして、実物を見たり動作化したりしながら、場面の様子や登場人物の行動を捉え、読み進めていきたい。また、各場面を読み終えてから、「かみしばいカードをつくろう」と、自分の好きな場面を選び、紙芝居カードを作るようにし、児童に、選んだ場面の音読を発表したいという思いを高めていく。

5 成果と課題

本単元に入る前の文学的文章は、「音読が上手になるために詳しく教材文を読んでいく」という学習計画を立て、音読発表を目標としながら学習をしてきた。そのため、文学的文章では、登場人物の具体的な行動を中心に読んで想像し、登場人物の言動を思い浮かべながら音読したいという意欲をもつことができた。

本単元では、初めて読みのめあてをもつての学習となる。最初に教材文を読み、一人ひとりが好きなところを見つけ、感想を話したり書いたりした。「たぬきの糸車」は、物語の展開が明確であり、児童は物語に対する感想をもちやすく、「なぜ」「どうして」という疑問から読みのめあてを立てて学習を進めたことで、児童の主体的な学びにつながった。

本単元を通して、児童は場面の様子を思い思いに想像するのではなく、叙述を根拠に教材文を読み、学習問題について考えることで、これまで学習した「やくそく」や「くじらぐも」などとは違った物語の楽しさを味わうことができた。しかし、破れ障子から「のぞきこむ」か「見ている」、たぬきは糸車を「好きだった」のか「好きになった」のかなどの表現の違いについて更に踏み込んで考えさせると、読みがより深まったと考える。児童の読みを深めるために、教師が児童に考えさせたい言葉や文を明確にもっておくことが大切であった。

第2学年 授業実践

1 単元名 「読んで考えたことを 話そう」 教材名 「どうぶつ園のじゅうい」

2 単元目標

◎文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつことができる。

○共通・相違・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 共通・相違・時間の順序など、情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。	① 進んで文章と経験とを結び付けて感想を持ち、学習の見通しをもって考えたことを話そうとしている。

4 研究テーマの実現に向けた手立て（子どもとつくる学習計画）【実践前】

主体的な学びの実現に向けて、より自然な流れで見通しをもたせる展開が望ましい。

まず、児童は、リード文と出会う。ここでの「問い」は、与えられるかたちであるが、これまでも学習を進める際の指標として意識させてきたので、児童は自然な流れで「問い」を持つことになる。

次に、初発の感想である。文章を読んで自然と湧いてきた児童の感想や疑問が生かされる単元の展開となれば、主体的な学習になると考える。

そこで、第1時の生活経験の交流を丁寧に行うようにする。そうすることで、「大変な仕事である」ということに気付くはずである。また、本時に「そんな仕事を一日に行えるはずがない」と教師が投げかけることで、教材文の内容が「ある獣医の一日」である証拠を叙述から探す活動に入り、教材文の内容の大体（第一段階）を把握できるようになるであろう。その上で、各段落を読解していくことで単元の見通しを持たせやすくなると考える。

12	11	10・9	8～4	3	2	1	読んで考えたことを話そう 問い どんなしごと
ほかの生きものの本を読む	考えたことをつたえあう	考えたことをまとめる（書く）	2 く 9 だ ん ら く を く わ し く 読 む	1 か ん だ ん ら く を く わ し く 読 む	か ん そ う を 書 く	け い か く を た て る	見とおしをもつ

5 成果と課題

計画を立てることを提案したのは本単元が初めてであったが、既習教材「たんぽぽのちえ」を想起したり、リード文の「問い」から説明的な文章であることを周知したりすると、スムーズに計画を立てることができた。前述4にある学習計画は簡素な計画ではあるが、毎時間学習に入る前に確認し、スムーズに学習に入ることができた。「問い」に対する考えや分かったことなどを加筆したり、計画から逸れた流れになった際に確認して修正したりと、大いに活用することができた。

その後の単元「せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう」の教材文「馬のおもちの作り方」では、学習計画を児童が主体となって作ったり、段落冒頭の順序を表す言葉に気付き、スムーズに整理したりと、本単元の学習を生かした姿が多く見られた。また、学習を進める中で、「実際におもちゃを作ってみよう」という案が出た。教師側はその計画でいたが、当初立てた計画に追加の活動

を入れることで、児童はより主体的に学習に取り組むことができたのである。

課題は、物語文の学習計画である。経験の浅い二年生の児童にとって、教材のアプローチの仕方を思いつくことは難しい。リード文を手掛かりに教材文を読み、疑問などを共有してその解決をめざす計画を立ててきた。児童にとって、立てた計画に沿った進め方は、意欲的であったので成果と言える。しかし、終盤、教科書にある計画と照らし合わせると、計画にはない活動が提案されることがしばしばあった。教材文の別の見方と出会うこととなり、児童にとっては新鮮であったが、見通しをもった活動とはいえない面もあった。

学習計画を立てると、「今日は、何をやるの？」という声は聞こえなくなる。ゴールが見えているので、そこまでにやることが分かり、児童の主体性が育まれていく場面を多く見る事ができた。そして、この積み重ねが、中学年・高学年になるに従い、より具体的に、多様な見方になっていくことを期待しながら、二年生なりの学習計画を、児童と共に作る姿勢で続けていきたい。

第3学年 授業実践

1 単元名 「場面を比べて読み、感じたことをまとめよう」 教材名『ちいちゃんのかげおくり』

2 単元目標

○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

○文章を読んで理解したことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気づくことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

4 研究テーマの実現に向けた手立て（子どもとつくる学習計画）【実践前】

「〇〇と感じました。なぜなら、」という形で自分の感想を書かせることで、どこの場面でそう感じる子どもが多かったかなどの感想の把握がしやすくなり、初発の感想を生かした授業を行うことができるのではないかと考えた。初発の感想や疑問から学習計画を立てる時間を設け、学びの共有化を図るようにする。

また、最後の感想では、初発の感想に付け足す形で感想を書く。そうすることで、学習で得た新たな読みの視点や、自分の読みの更新に気付くことを期待したい。

5 成果と課題

「〇〇と感じました。なぜなら、」という形で初発の感想を書かせ、それを段落ごとに表にまとめることで友達と自分が感じたことを初めに共有することができた。友達の感想を目に見える形で提示することは初めてだったが、自分と比べて友だちがどこでどんな感想を持ったのか興味深く読んでいた。また、その表に疑問を加えたことで、各段落の学習計画をそこから立てたいという子どもたちの思いが出てきた。そ

これから学習課題を立てることで、学習の流れを見渡し、今後の学習に対する意欲をもつことができていた。

場面ごとにメインとなる課題を子どもたちの疑問の中から選んで共有し、学習課題として設定して学習計画をたてたことで、より「自分たちの課題」として捉え、追究することができた。

第4学年 授業実践

1 単元名 「登場人物の変化を中心に読み、物語をしょうかいしよう」 教材名『プラタナスの木』

2 単元目標

◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。

○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。	① 読むことにおいて、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ② 読むことにおいて、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、物語の内容を紹介する文章を書こうとしている。	①学習の見通しをもって積極的に登場人物の気持ちの変化や生活、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、物語の内容を紹介する文章を書こうとしている。

4 研究テーマの実現に向けた手立て（子どもとつくる学習計画）【実践前】

児童が「プラタナスの木」を読むと、「マーちゃんたちは、また、おじいさんと再会できるだろうか」

「おじいさんは何者なのか」「なぜマーちゃんたちは切り株の上に立ったのだろうか」といった問いが自然と生まれてくると予想される。この生まれた疑問について、友達と意見の交流をすることで考えの違いを知り、児童が物語の内容を理解することへと繋げていきたい。そこで、本単元では、初発の感想から生まれる児童の疑問や意見の違いを中心に学習計画を作成していく。そして、児童の疑問を解決しながら、その中に指導内容として押さえない「公園で出会ったおじいさんの存在が何者か」、「主人公のマーちゃんたちがプラタナスの木についての考え方が変わっていくきっかけは何か」という点をおさえていく。

5 成果と課題

初発の感想をもとに児童の疑問を中心に学習計画を立てることで、児童が自分の疑問を解決したいという意欲が生まれ、主体的に学ぶ姿が見られた。「おじいさんはなぜ木によろしくといったのか」「マーちゃんたちは、また、おじいさんと再会できるだろうか」「おじいさんは何者なのか」「なぜマーちゃんたちは切り株の上に立ったのだろうか」「おじいさんが公園に来なくなったのはなぜか」「おじいさんとプラタナスの木はどんな関係があるのか」など様々な疑問が出た。その疑問をもとに、学習計画を立てることで児童が見通しをもって授業に取り組んでいた。自分たちが疑問に思っていることを学習できることが児童の主体性を生むことにつながった。

課題としては、児童の疑問を中心に学習計画を作ると、叙述から内容を見つけられないものも出てきてしまう。事前に、叙述から内容を取り上げることができるかどうか考え、計画をしっかりと立てる必要があると感じた。

第5学年 授業実践

1 単元名 「物語の全体像をとらえよう」 教材名『たずねびと』

2 単元目標

- ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ③「読むこと」において、文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。	①学習の見通しを持って、粘り強く物語の全体像を想像しようとしている。

4 研究テーマの実現に向けた手立て（子どもとつくる学習計画）【実践前】

単元の最初に全体像を読み取らせる。その後、子どもの意見を取り上げながら学習計画を立てる時間を設けることで、児童が必要感を持って学習に取り組むことができるようにしていく。そこから出た課題をもとに、全体像を捉える観点を考えさせる。そこから登場人物の心情、出来事、主題という3つの観点に絞り、教材を読み取るようにする。学習計画を掲示をし、見通しもち、確認できるようにする。

5 成果と課題

本単元では、身に付けたい力の「全体像を捉える」ためにどんなことが必要かを話し合い、その意見をもとに学習計画を立てていった。そのおかげで、児童は単元の見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができた。「自分の考えが学習計画になったのでがんばった。」「次の授業で、何をするのかかわかっていたので家で考えてきた」など学習に前向きになったようである。また、「教室に学習計画が書いてあるのでわかりやすかった」という声も聞かれ、教室に学習計画を掲示したことも、学習に見通しをもたせるために大変効果があることが分かった。

本単元の指導時数は、7時間である。その中で、全体像を捉える時間などを抜くと、教材自体の読み取りは3時間になってしまった。実際3時間だけでは、教材を深く読み取ることは難しかった。全体像を捉えることに関わる読み取りはできたが、教材のよさを味わうまでには至っていない。身に付けたい力をはっきりさせ教材の必要なところだけを読み取らせる方法も大事だと思うが、もう少し読み取りに時間をかけて、教材のよさを味わうことも大事なのではないかと感じた。

第6学年 授業実践

1 単元名 「筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう」

教材名 『メディアと人間社会』、『大切な人と深くつながるために』

2 単元目標

- ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

○文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。	①事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもっている。 ③文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。	①複数の文章を読んで自分の考えをまとめることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。

4 研究テーマの実現に向けた手立て（子どもとつくる学習計画）【実践前】

単元の最初に、本単元で学習する内容を児童と確認する。その後、児童の意見を吸い上げながら学習計画を立てる時間を設ける。そうすることで児童が必要感をもって学習に取り組むことができるようにしていく。立てた学習計画は、単元の学習で掲示し、児童自身が見通しをもって学習を進めていきたい。

5 成果と課題

主体的に取り組む姿の実現に向けて大切なことは、1時間ごとではなく、単元やまとまりで学習を考えることである。そこで、どの教科においても、児童の学力の実態把握に努め、実態に応じて単元を考えるようにした。単元の導入において、児童の思いや願いを大切にしながら単元計画を立てることができたと考える。このことにより、児童も主体的に学習に取り組む姿勢が見られた。

しかし、計画を立てる際、どうしても教師の願いが強くなってしまい、児童の思いとずれてしまう場面があった。児童の思いを大切にしたい単元計画の作成は非常に難しいものであった。児童の思いに寄り添い、単元で身につけさせたい力を明確にした上で、単元計画を作っていきたい。

Ⅲ 考察

1 令和2年度の紀要から

「児童とつくる学習計画」については、学年検討会や事前検討会の際によく協議した事項である。事前検討会では、計画作成の経緯や系統性を全体で確認できた。「児童とつくる学習計画づくり」では、単元の始めに児童の感想や疑問を交流し学習問題を設定、学習計画を立てたことで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。また学習計画表を教室掲示しておくことによって、児童は「今日は何について考える（学ぶ）のか」を理解し、見通しをもって学習意欲を保持しながら授業に臨む姿が見られた。今後も学年に合わせて児童と共に学習計画をつくる姿勢をもち続けたい。

次年度は、質の高い学びにつながるような学習計画や学習問題づくりができるよう授業改善をしていきたい。

2 令和3年度の1学期の実践から

2～6学年では、全学年がクラス替えを行っている。全てのクラスが前年度とは異なるメンバーにもかかわらず、令和2年度の研究の成果を感じる場面が多い。例えば、物語文や説明文の単元の始めに、「計画を作りたい」という声が少なからず上がる。前年度のアプローチを確認し、同じように進めたいという児童がほとんどではあるが、1学年上がっていることを意識する児童は、「それでは、前の学年と同じになっちゃうよ。」と話す。「でも、文章が分かりにくいから、まずは、前のようにやってみようよ。」という話になる。

単元の終わりには、全体を振り返り、主体的な学びが深まったと言える場面も多く見られるようになってきている。今年度の校内研究の教科ではないが、今後も、継続して前年度の実践を生かし、国語部会を機能させて研鑽を深めたい。